

- 1 単元名 資料を用いた文章の効果を考え、それを生かして書こう
「固有種が教えてくれること」「グラフや表を用いて書こう」

2 本単元の目標

- (1) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2)イ
(2) 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)エ
(3) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)エ
(4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使っている。((2)イ)	思①「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書いている。(B(1)エ) 思②「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりする。(C(1)エ)	態①粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習に見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして、統計資料を用いた意見文を書こうとする。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領国語における第5学年の指導事項（思考力、判断力、表現力）B(1)「エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」、C(1)「ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること」を受け、設定したものである。この説明文は、説明的な文章教材「固有種が教えてくれること」と「グラフや表を用いて書こう」で構成される複合単元である。「固有種が教えてくれること」は、地図、表、写真、グラフといった多様な資料を提示しながら筆者が主張を展開している。一つ一つの資料の意味や効果を考えることを通して、資料を利用して自分の考えを伝えるよさに気付くことができる。さらに、それをいかして、「グラフや表

を用いて書こう」で、これからの社会について資料を用いながら自分の考えを書く内容となっている。学んだ内容を生かせる展開となっており、自分の考えを文章に書く学習に向けて、主体的に取り組むことができる教材である。

(2) 児童観

児童はこれまでに、二つの単元において説明文を学習した。「みんなが過ごしやすい町へ」では、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えながら、調べたことを正確に報告する文章を書いた。「見立てる」、「言葉の意味が分かること」(複合単元)では、事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する学習を行った。このように、児童は、調べたことを報告する文章を書いたり、文章の要旨を捉えながら説明文を読んだりする学習に慣れつつある。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、次の2点に重点を置く。①自分の考えが明確に示されているか、資料と文章との関連に問題がないかを、常にペアによる交流を通して確かめ合う。②文章の構成を考えるときは、「初め」「中」「終わり」の構成に分かれているワークシートを利用する。

5 単元の指導計画 (11 時間扱い)

○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価方法・留意点等
1	1	課題 学習の見通しをもち、学習計画を立てよう。 資料を活用した文章を読んだり書いたりする活動の見通しをもち、学習計画を立てる。			○	態①: グラフや表を用いて各活動への見通しをもとうとしているかを見取り、感想をもてない児童には、初めて知ったことやおもしろいと思ったことを考えるように促す。【発表・ノート】
2	2	課題 文章を「初め」「中」「終わり」のまとまりに分け、それぞれに書かれている内容を確認めよう。 文章の構成を考えて、おおまかな内容を確認める。 まとめ まとまりに分けるには、○○に注目することが大切。		○		思②: 文章の構成を押さえて論の進め方を確認し、文章の内容の大体を捉えているかを見取り、理由のきっかけがつかめない児童には、図がどこを説明しているのかを指摘するよう促す。【発表・ノート】
	3	課題 「初め」「終わり」に書かれている、筆者の考えの中心を考え、要旨をまとめよう。 資料の使われ方を話し合い、筆者の考えを捉えて要旨をまとめる。 まとめ 要旨をまとめるには、○○が大切。		○		思②: 文章と資料を結びつけたりその効果を考えたりして、論の進め方を捉え、要旨をまとめているかを見取り、要旨のまとめ方が分からない児童には、「言葉の意味が分かること」の学習を想起するよう促す。【発表・ノート】
	4	課題 文章について自分の考えをまとめ、他の本を読んで資料の内容や使われ方を確認めよう。 筆者の考えについて、自分の考えをまと				思①: 筆者の考えや、論の進め方について、図表などの効果にふれて、自分の考えをまとめているかを見取り、資料の解釈が苦手な児童には、本文との対応を指摘させ、数値の変化

		める。				などに着目するよう助言する。【発表・ノート】
	5	課題 統計資料の読み方を知って、資料の読み方にいかそう。 統計資料の読み方を知り、資料の読み方に生かす。 まとめ 統計資料を読むときは、目盛りや単位、調べた時期や対象などを確認することが分かった。	○			知①：①統計資料の読み方を理解し、自分が興味をもった資料や文章を読むときに生かしているかを見取り、理解していない児童には、個別指導を講じる。【発表・ノート】
	6	課題 資料を読んで分かったことと、資料の効果をまとめて、伝え合おう。 資料を読んで分かったことと、資料の効果をまとめて、伝え合う。	◎			知①：情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解している。【発表・ノート】
3	7	課題 「これからの社会について」自分の考えをもち、それに合うグラフや表を探し、メモを取ろう。 これからの社会について自分の考えをもち、それに合うグラフや表を探す。		◎		思②：目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりする。【発表・ノート】
	8	課題 選んだ資料と「初め」の文章の構成をまとめよう。 - 選んだ資料について分かることをまとめる。 - 文章の構成を確認し、「初め」の部分をまとめる。		○		思②：資料から分かる事実とそこから考えることを書き出しているかを見取り、うまく構成できない児童には、どこに何を書くかを示したワークシートなどを利用して、手がかりを与える。【発表・ワークシート】
9 本時		目標：目的に合った図表やグラフを用いて、順序よく文章を書く方法を考えることを通して、自分の考えが伝わる文章を書くことができる。 1 本時の学習の目標をとらえる。 課題 「これからの社会について」の自分の考えが伝わる文章を、図表やグラフを用いて書こう。 2 文章の構成（何を、どの順序で書くかを確認する。 - 文章の構成「初め」→「中」→「終わり」 「初め」→自分の考えを書く。 「中」→図表やグラフの説明と、それをもとに考えの理由を書く。 「終わり」→まとめを書く。（自分の考え） - 最後に、参考にした資料名やウェブサイトなどの出典を明記する。		○		- 資料を用いながら自分の考えを伝えることは、伝えたいことを分かりやすく説明する方法であることを確認する。 「資料」「初め」「中」「終わり」の構成に分かれているワークシートに書くようにする。また、説明文のセルフガイドを利用して書くようにする。 知①：目的に合った図表やグラフを用いて順序よく文章を書く方法を考えることを通して、自分の考えが伝わる文章を書いているかを見取り、書き進められない児童には、作例や資料の見方や考えを表現するときの話型を掲示し、利

		3 「これからの社会について」の意見文を書く。 <文章構成> 資料 終わり 中 初め 4 書いた文章を読み合って交流する。 ・友達とノートを交換し、読み合う。 ・自分の考えと理由が明確に示されているかを確かめ合う。 5 本時のまとめをする。 まとめ 「これからの社会について」の文章を、図表やグラフを用いて書くと、自分の考えを分かりやすく伝えることができる。 6 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を知る。 ・自分の考えの理由を、グラフを利用して説明できた。		◎	用いて書くよう助言する。 【ワークシート】 思①：引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書いている。 【ワークシート】
	10	課題 友達と読み合って下書きを見直して文章を完成させよう。 ・友達と読み合って下書きを見直して文章を完成させる。 まとめ 下書きを見直す時には、〇〇に気を付けることが大切。		◎	態①：粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習に見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして、統計資料を用いた意見文を書こうとする。【観察・ワークシート】
4	11	課題 書き表し方に注意して友達と文章を読み合い、文章のよいところを伝え合おう。 ・書き表し方に注意して友達と読み合い、文章のよいところを伝え合おう。		○	思②：これまでに注意してきた観点を意識して読み合い、文章のよいところを見つけているかを見取り、感想が持てにくそうな児童には、「分かりやすいと思ったところ」「なるほどと思ったところ」などを指摘すればよいことを伝える。【発表・ノート】